

2019年度 石狩西部広域水道企業団 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の進捗状況

1 二酸化炭素の排出量の推移

当企業団の事業実施に伴う二酸化炭素排出量の推移は、図1のとおりであり、2019年度は、基準年度に比べ69 t-CO₂減少（▲7.6%）しました。

なお、2018年度は、北海道胆振東部地震によるブラックアウトの影響で、水道施設における電力使用量が減少したことにより二酸化炭素排出量が大きく減少しました。



図1. 二酸化炭素排出量の推移

表1. 中間目標と取組実績

実行計画		区分		2019年度実績
基準年度(2014年度)排出量(A)		908	排出量(B)	839
削減目標	削減量	75	削減量(A-B)	69
	削減率	8%	削減率((A-B)/A)	7.6%
中間目標年度(2023年度)排出量		833		

※「排出量」は、二酸化炭素排出量を指し、単位は t-CO₂。

2 電力使用量の推移

当企業団の水道施設における電力使用量及び送水量1 m³当たりの電力使用量の推移は、図2のとおりです。

2019年度の送水量1 m³当たりの電力使用量は、基準年度に比べ0.004kWh/m³下回りました。

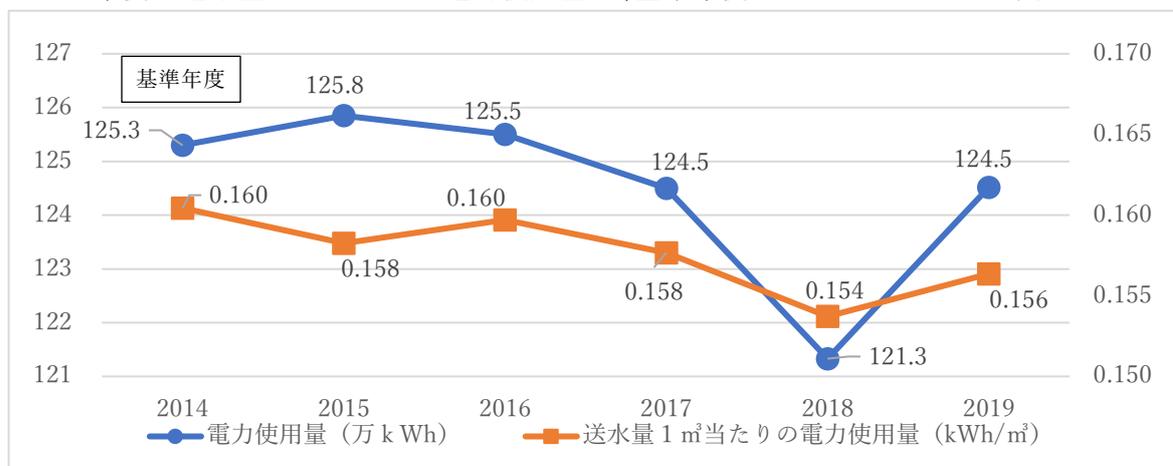


図2. 電力使用量の推移

3 2019年度における要因別の二酸化炭素排出量の割合

エネルギー種別の二酸化炭素排出量は図2のとおりであり、約95.5%が電気利用により生じています。

また、施設別の二酸化炭素排出量は図3のとおりであり、ポンプ設備を備えた当別浄水場及び当別分水施設からの排出量が全体の約91%を占めています。

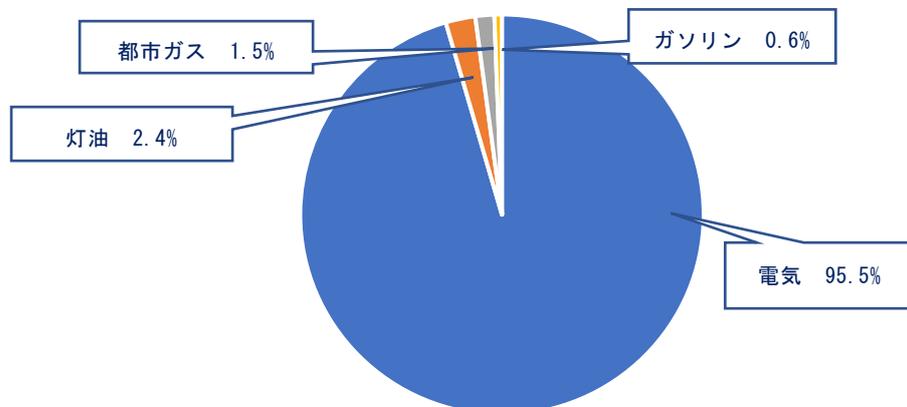


図2. 二酸化炭素排出割合(エネルギー種別)

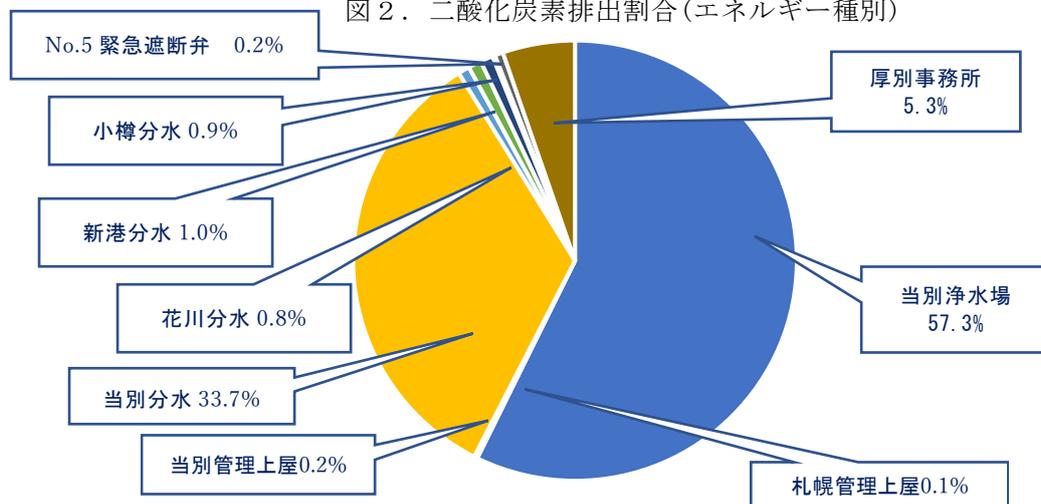


図3. 二酸化炭素排出割合(施設別)

4 実行計画に基づく主な取組

○電気使用量の削減

- ・浄水施設及び分水施設に係る運転管理の効率化及び適正化に取り組むとともに、水道施設の運転管理業務受託者に同様の取組を要請しました。
- ・不必要な照明の消灯や、パソコン・コピー機の省電力機能の有効活用等の節電に取り組むとともに、水道施設の運転管理業務受託者に同様の取組を要請しました。

○ガソリン使用量の削減

- ・効率的な公用車の使用や、エコドライブを実践しました。

○灯油・ガス使用量の削減

- ・クールビズ及びウォームビズを推進しました。

5 今後の取組

2019年度は、二酸化炭素排出量が基準年度と比べて7.6%減少しましたが、中間目標年度である2023年度の目標達成に向けては、二酸化炭素排出量のさらなる削減が必要であるため、要因別の二酸化炭素排出割合の傾向を踏まえ、企業団職員による取組を徹底するとともに、引き続き、水道施設の運転管理業務受託者に対しても本計画に基づく取組を要請し、目標達成を目指します。